

## 令和5年度第2回我孫子市自殺対策協議会 会議概要

(1) 会議の名称	令和5年度我孫子市自殺対策協議会							
(2) 開催日時	令和5年8月23日(水) 午前10時から午前11時半まで							
(3) 開催場所	市役所分館 大会議室							
(4) 出席又は欠席した委員その他会議に出席した者の氏名 (傍聴人を除く)  出：出席 欠：欠席	委員(市職員以外)							
	出	箕下 成子	欠	池森 紀夫	出	尾上 匡史	出	福島 慎太郎
	出	渡邊 三枝子	出	鈴木 幸子	出	玉村 公樹	出	柳瀬 玲子
	欠	小原 邦子	欠	大島 拓未	出	内山 雅郎		
	事務局出席者							
	社会福祉課 (小池課長、高橋) 障害者支援課(藪野) 健康づくり支援課(諏訪) 株式会社明豊							
(5) 議題	(1) 我孫子市の自殺統計について  (2) 令和4年度我孫子市自殺対策計画実績報告について  (3) 近隣市の自殺対策について  (4) 次期我孫子市自殺対策計画について							
(6) 公開・非公開の別	公開							
(7) 傍聴人の数 (会議を公開した場合)	傍聴人の数	0人						
(8) 会議の内容(概要)								
発言者	内 容							
○健康福祉部 課長挨拶								

議題 1 我孫子市の自殺統計について

葦下会長	それでは、議題に入ります。 議題（１）「我孫子市の自殺統計」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	まず初めに、自殺対策の現状についてご説明させていただきます。  自殺につきましては、主要先進7か国の中で、日本が、一番高く、自殺者数の累計は「毎年2万人」を超えるなど、非常事態と言える状況にあります。 我孫子市では、自殺対策を総合的、かつ効率的に推進するために、平成22年に自殺予防対策に関わる関係機関、及び団体等で構成する「我孫子市自殺対策協議会」を設置し、我孫子市の自殺対策に取り組み始めました。 また、平成28年には「自殺対策基本法」が改正され、「自殺対策が“生きることの包括的な支援”」と位置づけられるとともに、自殺を防ぐための計画策定が、義務付けられました。 我孫子市では、平成30年12月に、委員の皆さまのお力をいただき、「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」を策定し、平成31年度からスタートさせています。 自殺の原因は、健康問題や家庭問題、生活困窮など、様々な社会的要因や病気等が複合していることが知られています。 また、その多くが、追い込まれた末の死であり、自殺は、個人の問題だけではなく、その多くが防ぐことのできる社会的な問題と考えられています。 誰もが、自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、家庭・地域・NPOなど市民団体・学校・職場・専門機関等、様々な分野の人々や組織が連携し、生きることの包括的な支援を推進していくことが必要と考えています。  それでは、まず初めに、自殺の現状を説明させていただきますので、「資料3の 令和4年 地域における自殺の基礎資料」の1ページ目をご覧ください。 お配りしました資料のデータは、厚生労働省の「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」から抜粋したものになります。 令和4年の全国の自殺者数は21,723人で、前年から903人増加しました。 うち、千葉県の自殺者数は1,004人で、前年より41人増加しています。 我孫子市の自殺者数は18人で、前年より5人減少しました。 近隣市では、松戸市が4人増加、野田市が3人、柏市が5人、流山市が2人の減少となっています。 人口10万人に対する自殺者数を示す自殺死亡率につきましては、全国で17.25、千葉県は15.91となっています。 我孫子市は13.7で、前年より減少し、全国、千葉県を下回ることになりました。 「令和4年の自殺者数の内訳」では、男女ともに、中高年の方が、家庭問題や健康問題や交際問題等により、多く自殺に追い込まれています。  2ページの「地域の自殺の基礎資料」を、ご覧ください。 こちらは、我孫子市の平成25年から令和4年までの10年間の自殺者数や自殺死亡率等の累計データをまとめたものとなっています。 自殺者数の累計データは、10年間で204人、男女別では、男性が131人、女性が73人となっており、男性が約64パーセントを占めています。 年代別では、50歳代が41人と最も多く、その次に60歳代が36人となっています。 職業別では、無職者が最も多く、その中でも年金・雇用保険等生活者が多くなっています。  3ページをご覧ください。 原因・動機別では、健康問題が112人と、全体の約45%以上を占めています。

続いて、5ページをご覧ください。  
 5ページ上のグラフは、我孫子市の平成25年から令和4年まで10年間の男女別の自殺者数の推移になります。  
 このグラフの通り、我孫子市では平成25年から平成31年にかけて男女合計の自殺者数は減少傾向にありましたが、令和2年、令和3年と増加に転じていました。令和4年は令和3年より減少しました。  
 次に下のグラフは、10年間を累計した男女別年代別の自殺者数になります。  
 各年代を男女別にみると、男性では50歳代が一番多く41人、次に60歳代の36人となり、中高年の方の自殺が多いことがわかります。  
 女性は、70歳代が一番多く17人、その次に50歳代、60歳代の12人となっています。  
 70歳代では、女性が男性を上回っていることがわかります。

次に6ページをご覧ください。  
 こちらは、上のグラフが職業別自殺者数の累計となっています。  
 先ほども申し上げましたが、職業別で一番多いのは、年金・雇用保険等生活者となっています。また、全体の約65%が無職の方となっています。  
 下のグラフは、原因別自殺者数の累計となっています。  
 原因別では、3ページでも申し上げた通り、圧倒的に健康問題が多くなっています。健康問題の多くは、うつ病の方が多いようです。

次に7ページをご覧ください。  
 こちらは、上のグラフが月別の自殺者数の累計、下のグラフは曜日別の自殺者数の累計を示したグラフになります。  
 上のグラフをご覧くださいますと、3月が一番多く20人となっています。

また、下のグラフでは、月曜日が最も多く、次に、金曜日となっていて、週の初めと終わりが、多くなっています。

最後に3ページ、6ページで説明させていただいた原因・動機別自殺者数内訳について、資料4 令和4年原因・動機別自殺者数内訳をご覧ください。  
 こちらは警察庁が公表している全国的な資料となります。  
 1ページ目の上の表をご覧ください。自殺の原因は、全体の約45%は健康問題となっており、健康問題の内訳が、2ページ目の上の表となっています。  
 健康問題のうち、一番多いのはうつ病の悩み・影響で35%、二番目が身体の病気による病気の悩み・影響で23%となっています。  
 様々な要因からうつ病になり、自殺に追い込まれる方が多いようです。  
 健康問題に次いで多いのが、家庭問題と経済・生活問題です。  
 様々な要因で家庭問題や経済・生活問題を抱えている方が多くなっているようです。

<p>蕨下会長</p>	<p>ただ今、事務局より自殺の現状につきまして説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。</p>
<p>玉村委員</p>	<p>自殺の原因は、どのように把握しているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>遺書がある場合はその内容で原因を集計します。遺書のない場合は家族への聞き取りで原因を判断していますが、不明の場合や考えられる原因が複数ある場合もあるため自殺者数とは一致していません。</p>
<p>内山委員（代理竹本委員）</p>	<p>警察でも自殺された方のご家族への聞きとり、家庭調査を行い犯罪性がないかという観点からの調査を行っています。</p>
<p>蕨下会長</p>	<p>他にご意見等ございませんでしょうか。          ないようでしたら、次の議題に入ります。</p>

議題2 令和4年度我孫子市自殺対策計画実績報告について	
蓑下会長	次に議題（2）「令和4年度我孫子市自殺対策計画実績報告について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>計画につきましては、冒頭でもご説明させていただきましたが、我孫子市の自殺対策を推進する計画として、平成31年度からスタートしています。</p> <p>この計画は、市民の誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けて、生きることの包括的な支援（自殺対策）をみんなで推進し、かけがえのない命を支え合うことを目的として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人ひとりへの周知啓発と心の健康づくり</li> <li>・適切な相談と支援につなげるネットワークの構築</li> <li>・命を支える人材の養成</li> <li>・様々な対象に応じた自殺対策の展開</li> </ul> <p>の4つのいのちを支えあう施策を掲げています。</p> <p>また、各施策を推進するため、9つの取り組みと93の個別事業を掲げています。</p> <p>それでは、資料5の評価指標一覧をご覧ください。</p> <p>こちらは、「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」の評価指標の昨年度までの実績になります。</p> <p>本日は、7つの指標のうち、2021年度（令和3年度）から2022年度（令和4年度）にかけて実績が低くなったひとつの指標についてご説明します。</p> <p>指標① 市民一人ひとりへの周知啓発と心の健康づくりの 障害者まちかど相談室における精神障害に関する延べ相談件数です。</p> <p>こちらは相談件数の報告のやり方が変わったとのことから件数が減少しておりますが、職員の体感では、相談件数は大きく減少しているということではないようです。</p> <p>次に指標⑥ 様々な対象に応じた自殺対策の展開の中の、職業相談件数についてです。</p> <p>こちらはコロナ禍をとおして、ハローワークのインターネットサービスが拡充し、我孫子市地域職業相談室への相談件数が減少していることが考えられます。</p> <p>次に、我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画のサブタイトルにもあります、「ゲートキーパー」について説明させていただきます。</p> <p>ゲートキーパーとは、計画書35ページに記載していますが、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。</p> <p>令和2年度にゲートキーパー研修の内容を撮影し、我孫子市のYouTubeへ掲載した動画の令和4年度の視聴回数は135回でした。</p> <p>また対面式の研修は、昨年度は、市役所職員を対象に2回。市内小中学校教員対象に1回、高齢者なんでも相談室・障害者まちかど相談室職員対象に1回ゲートキーパー研修を開催しました。</p> <p>昨年度の研修では、ゲートキーパーの役割を知っていた受講者が45.6%と令和3年度の28.1%よりは増加しました。今後も多くの方にゲートキーパーを知ってもらうため、啓発してまいります。</p> <p>また、受講者の中で今までに自殺に関する相談を受けたことのある者が20.2%でした。</p> <p>自殺に関する相談を受けた際の受け答えや、気を付けるべきことを研修等を通して多くの方に知ってもらえるよう努めてまいります。</p>
蓑下会長	ただ今、事務局より説明がありました。このことでご質問やご意見などございますか。（意見なし）

議題3 近隣市の自殺対策について	
葦下会長	次に議題（3）「近隣市の自殺対策について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	千葉県内には、54市町村があり、その内の19市町村が名称は様々ですが、自殺対策協議会の設置をしています。他計画と一体に策定している市町村が29市町村あり、千葉県内では約88%の市町村が自殺対策について協議会等を設置して推進しているようです。 次に、令和4年度に千葉県主催で実施した「令和4年度千葉県市町村等自殺対策担当者会議」について説明します。 「資料6 令和4年度千葉県内自殺対策事業について」をご覧ください。
事務局	令和4年度に実施した千葉県市町村等担当者会議では、「自殺総合対策大綱」の見直しについての説明と「市町村の取組事例発表」、千葉いのちの電話から「自殺ハイリスク者への電話対応と支援について」が話し合われました。その中で、「市町村の取組事例発表」について説明します。 令和4年度の会議では柏市、市原市、八千代市が各市で行っている自殺対策事業についての発表がありました。 八千代市の発表は自殺対策計画策定に関するものでしたので、今回は割愛します。
事務局	柏市の自殺対策事業の取組として「#夏休み明けのソナエ 夏休み中のお子さんのいるご家族へ送るメッセージ」があげられました。 内容は、9月1日問題として多くの学校が夏休み明けを迎える9月1日は1年を通して子どもの自殺が多く、その理由として「いじめを含む人間関係に対する憂鬱感」「生活リズムの変化や病気等体調不良からくる不荷感」「休み明けのテストに対するプレッシャー」などがあります。その背景には家族問題がある場合も少なくありません。夏休み明けを迎えるタイミングで不安が急激に高まり、心理的視野狭窄に陥るなどして自殺行為に及ぶ子どももいます。そのような現実を前に、子どもたちに対して「相談してください」といった呼びかけ等がされていますが、誰かに相談することは特に傷つき体験を重ねた子供たちにとってハードルの高いことです。
事務局	そこで、柏市は「ご家族に対してできることはないか」が子どもの自殺予防につながるのではないかと考えたそうです。 子どものサインやSOSを感じ取ったご家族にどうしたらよいかヒントとなるメッセージを届けることで力になりたいと考え、その発信を子どもが目にした際に「気持ちを分かってくれる大人もいるんだ」などと感じてもらえるよう柏市福祉総務課のTwitterアカウントを開設し、8月18日から9月1日まで、毎日メッセージを発信することを始めたそうです。メッセージ内容の1例として資料に記載しています。 資料6の2枚目をご覧ください。こちらは8月1日に柏市より情報提供のあったものになります。柏市では子どもの自殺対策の一つとして、自殺対策啓発動画を作成したとのことです。このような取り組みを行い、市民と市の信頼関係を築きながら、悩みを抱えている子どもとその保護者を救うために取り組んでいます。
事務局	次に市原市の発表には、自殺対策計画の策定についてと「こころの体温計」についての発表がありました。 「こころの体温計」とは（株）FBIが開発したメンタルヘルスチェックシステムのことです。多くの自治体で取り組んでいるようです。携帯電話・スマートフォン・パソコンから手軽にいつでもどこでも、セルフメンタルチェックができ、その場で結果に基づき相談窓口等の情報をお知らせするシステムです。ご本人のみならず、ご家族の方のチェックができるメニューや、アルコールチェックなどのメニューもあります。メンタルセルフの結果は水槽の中で泳ぐ金魚や、水の透明度、水槽のまわりにいるキャラクターで、あなたのこころの健康状態を表します。 今後も他市の取組状況も参考に、自殺対策事業に取り組んでいきたいと思えます。

葦下会長	ただ今、事務局より説明がありました。このことでご質問やご意見などございますか。私がニュースで見たものは、子どもが自らメンタルヘルスのチェックができるサイトがあるということで、チェックの結果によっては学校を休んで、という結果が出るといったものがあるようです。
障害者支援課	障害者支援課では令和3年度より、中学生向けのメンタルヘルスについてのパンフレットを作成し、配布をしています。こちらのパンフレットにはメンタルヘルスのチェックリストや精神疾患に関する代表的な症状、相談窓口等を記載しています。令和5年度からは小学6年生から中学3年生までの児童に対しパンフレットを配布しています。
事務局	先ほどご説明させていただいた自殺の統計に我孫子市の自殺者の合計が出ております。今、全国的には未成年者の自殺が問題となっておりますが幸い我孫子市では今ご紹介させていただいた障害者支援課の取り組み等もあり未成年の自殺者数はゼロを継続しています。今後もこのゼロが続くよう取り組みを行っていきたくと考えています。
葦下会長	小学6年生からパンフレットを配布しているということですが、子どもによっては小学4年生くらいから、生きる理由など考える子もいるかと思えます。今後さらに配布の範囲を広げることでもできるのではないかと思います。
議題4 次期我孫子市自殺対策計画について	
葦下会長	次に議題（4）「次期我孫子市自殺対策計画について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	現在計画期間中である「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」が今年度で計画期間満了を迎えるため、株式会社名豊に業務委託を行い、次期我孫子市自殺対策計画を策定中です。現時点の進捗状況としましては、自殺対策計画策定のための市民アンケートを6月から7月にかけて行いました。こちらのアンケートは無作為抽出した市民1,500人に送付し、427件の回答がありました。今後回答結果をもとに骨子、素案の作成を行っていきます。 本日は、アンケート結果の概要と次期我孫子市自殺対策計画の骨子につきまして株式会社明豊よりご説明していただきます。よろしくお願ひします。
株式会社明豊	本日は、手元のアンケート資料から結果について要点をご説明いたします。まず資料13ページをご覧ください。「問2 あなたは、現在のこころの健康状態についてどのように感じていますか」という問いでは、「あまり健康でない」、「健康でない」と答えた方が2割という結果となりました。次の14ページに性年齢別の集計が出ております。男性30歳代、40歳代、そして女性40歳代で「あまり健康でない」、「健康でない」と回答した割合が高くなっています。このような年齢別の特徴は他の問でも表れています。資料48ページをご覧ください。「問9 最近1か月くらいで、悩みや不安、ストレスを感じたことがありますか」という問では「時々感じることもある」、「いつも感じている」と答えた方が約4割という結果で、次のページの性年齢別の集計でも先ほどのこころの健康と同様に男性30歳代、女性40歳代でストレスを感じている割合が高いという結果が出ました。
株式会社明豊	続いて資料51ページ「問9-1 それはどのような事柄が原因ですか」という問ではストレスを感じる原因を聞いています。男性では仕事に関する事柄、女性では家庭に関する事柄がそれぞれ多くなっています。54ページ「問10 あなたの不満やつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はいると思いますか」という問では、「いない」と答えた方が2割ほどとなります。次のページ、性年齢別をご覧くださいと男性の50～70歳代で「いない」と答えた割合が3割を超えてきています。次の56ページ「問11 あなたは、不安や悩み等つらい気持ちがあるとき、だれに相談しますか」というところで相談先を聞いています。こちらでも家族、親族と回答した方が多い一方で「相談したいができない」、「相談しようと思わない」の割合が1割ほどで、1割くらいの方は相談しようとしてもできなかった、相談しようとしなかったと答えています。

株式会社明豊	<p>61ページをご覧ください。新型コロナウイルス感染症への影響について聞いています。「問13 新型コロナウイルス感染症が買う題したことにより生活への影響はありましたか」という問では「大きな影響があった」、「影響があった」とあわせて半数以上の方が影響があったと回答しています。70ページ「問13-2 心理的な変化はありましたか」で「精神的・身体的に体調を崩した」、「不安やストレスが増大した」の割合が多いことからコロナ禍の影響が出ていることが伺えます。</p> <p>80ページからは仕事をしている方を対象に職場でのメンタルヘルスについて聞いています。81ページ「あなたの職場ではメンタルヘルスに関する制度がありますか」の間では「ない」と答えた方が25%という結果が出ています。</p>
株式会社明豊	<p>87ページ「問19 あなたは、これまでの人生のなかで、自殺したいと考えたことがありますか」で「ある」と回答した方が24.4%、そのうち「最近1年以内に自殺をしたい、またはそれに近いことを考えたことがありますか」の間で「ある」と答えた方は32.7%となっています。こちらを全回答者で割り返すと全体の約8%の方が最近1年以内に自殺を考えたということになります。回答数が少ないため結果にもばらつきがありますが、女性40歳、50歳代で自殺を考えたと回答した割合が高い傾向にあります。</p>
株式会社明豊	<p>女性の自殺については、110ページ「問26 あなたは、産後うつ病について知っていますか」で聞いています。男性80歳以上、20歳代で「知らない」と回答した割合が高くなっています。</p> <p>最後に、ゲートキーパーの認知度についてです。122ページをご覧ください。「内容まで知っている」、「言葉は聞いたことがある」の割合が3割を超えないということでまだ知らない方が多いのが現状かと思えます。</p> <p>「我孫子市自殺対策計画の見直しに係る体系・骨子の検討」をご覧ください。左側に現行の計画の体系を記載しています。この体系から国の方針、市の現状等を踏まえ右側に次期計画の体系案を記載しています。中ほど「我孫子市の現状」の「地域自殺実態プロファイル2022」では我孫子市の自殺対策において重点的な支援が必要とされる対象として「子ども・若者」、「無職者・失業者」が新たに加えられています。また、市民アンケートから職場でのメンタルヘルスに関する制度について「ない」と答えた方が25%、産後うつについて知らない人が約2割という結果を踏まえ、骨子案左側に「次期我孫子市自殺対策計画の体系(案)」を記載しています。施策では新たに「女性への支援」を追加し、また取組としては「ゲートキーパーの周知啓発」、「失業者への就業支援」、「職場におけるメンタルヘルスの推進」、「配偶者からの暴力の被害者支援の充実」、「様々な困難を抱える女性への相談支援等の充実」を追加しました。</p>
蓑下会長	<p>ありがとうございました。このことで、また会議全体についてご意見やご質問などございますか。</p>
尾上委員	<p>我孫子市の自殺者数を見ると、平成31年までは順調に自殺者が減っていたんじゃないかなと思います。コロナでまた自殺者数が増えてしまったように思うので今後減少していったほしいと思います。</p>
内山委員（代理竹本委員）	<p>警察としては、緊急時の支援体制を充実してほしいという希望があります。特に夜間にお酒を飲んだ勢いで、といったように自殺をされるケースが多いため夜間の支援体制を作れたらいいと思います。また子どもの自殺については、私も子どもの自殺現場に立ち会ったことがあります。ほんとうにつらいの一言です。子どもの自殺の背景には学校だけでなく家庭問題も関わっていると思います。親との関係が悪いというのはなかなか相談できない。そのうちに追い込まれるといったケースが多いのではないかなと思うのでそういった子どもへの支援を充実してほしいと思います。</p>

柳瀬委員	精神障害を持っている方は働くのが難しい、働けないので経済的困窮に陥り生活保護を受けます。生活保護を受けているから生活は成り立っているんだらうと、私たち支援する側は勘違いしてしまうのですがお金の使い方がわからない、生活費ではないところに使ってしまう、そして結果的に経済困窮となってしまうケースもあります。そういったときに、仲間など何かにつながるということが重要だと思います。つながることで相談しやすくなるような場が身近にできるといいと思います。
鈴木委員	ゲートキーパーの周知ということですが、以前民生委員186人を対象にゲートキーパー研修を行いました。しかし、受講した民生委員からは「重い」、「そんなことまでしないとイケないのか」といったような感想が聞かれ、民生委員の負担と感じた方が多かったようです。そんなに重く考えず、地域の方の見守りと考えてほしいと説明しましたが今後も見守りという意味でのゲートキーパーの必要性を説明していきたいと思います。同様にヤングケアラーについても民生委員の見守りという点で必要と言われています。民生委員としては年齢に関わらず地域の方の見守りを続けていこうと考えています。
福島委員	市民アンケートですが、今回だけではなく定期的に同様のアンケートをとって市民の皆様がどのような傾向にあるのかを計っていただきたいと思っています。また、近隣市の取り組みについてもご説明いただきましたが今後も近隣市で参考になる取組があればお知らせしていただき市の取り組みにも生かしてほしいと思います。最後に、アンケートから相談したいができないという方が一定数いるということで、相談窓口の充実が必要かと思っています。地域のイベントなどでつながる場を設けることが重要かと思っています。
玉村委員	市民アンケート56ページ、相談先についての回答では同居の家族や友人が多く、相談窓口が第一選択になっていないんですね。仕方ないことなのかと思いますが窓口の周知が必要だと感じました。同時にゲートキーパーの認知についてもまだ低い状態なので市民への周知活動が効果的なのではないかと思っています。 また、アンケートの結果からも30～40歳代のメンタルヘルスへの支援ということでこの年代の方たちが参加しやすい研修を企画するのが重要だと思いました。子ども・若者という点では、不登校から自殺につながるケースもあります。そういった場合、一番早く子どものサインをキャッチするのは学校の先生かと思うので先生に対する研修、公立学校の先生への研修ができるといいと思います。
蓑下会長	今、玉村委員からもありましたがゲートキーパー研修の効果的な開催方法を考える必要があるかと思っています。今までは研修を開催します、興味がある方はいらしてください、といった手法で開催していると思いますが、こちらから出かけていく研修というものも必要なのではと思います。また、子どものメンタルヘルスというところで小中学校でたとえば小学4年生から自殺対策を必修の授業にするとか、そういった方法で教育に組み込んでいくといいと思います。 また、産後うつなど女性の自殺という点では小さいお子さんがいると自ら出向いて研修を受けることは難しいと思います。市の検診の際にゲートキーパー研修を行うというのも効果的だと思いました。 近隣市の取り組みで、柏市の取り組みとしてSNSへの発信という説明がありましたが我孫子市でもツイッターでの発信をするのはいかがでしょうか。以前協議会で自殺対策の標語を議題として話し合いましたがまた標語のようなもの、たとえば「休むのはこころの栄養」とか「自分にプラスバカンス」のようなメッセージを発信していくのもいいかと思っています。
蓑下会長	本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。次回は11月24日の開催を予定しています。ご多用のところ申し訳ありませんがご予定いただきますようお願いいたします。
以上	